

7 貴族の姉妹

- 「お姉さま、ねえお姉さま
教えておねがい 見たでしょう
冷たく澄んだ朝の空から
わたしの窓辺に舞いおりる一羽の鷹を
首の鈴をりんりん鳴らし 5
翼の下になにか運んでいたでしょう
贈りものは りぼん
それとも指輪？」—
「明けがたに
たしかに鷹が舞いおりたわ 10
わたしの小鳩 かわいいあなたのため
追い払ってやったわ 盗人を。」—
- 「すらりとした きれいなお姉さま
見かけたかしら 赤茶いろの猟犬を
わたしの庭で嗅ぎまわり 15
四阿のそばで伏せたりするのを
絹のくびわを巻いていて
口にくわえていたはずよ
金のくさりと銀のかざりを
それかわたしへのお手紙を。」— 20
「そうね 猟犬が月に向かって吠えてたわ
良家の娘が 目をさますには
まだ朝早すぎたから
追いはらってやったの。」—
- 「それなら かわいい小姓と会ったでしょう 25
門のうえに腰おろし からだを揺らして
小鳥のように口笛吹く子よ。
寝坊でもしたのかしら
子(こ)鷺(わし)の刺繍のついた帽子と手袋を
身に着けていたでしょう 30
その子のポケットを裏返せば
愛のことづけが見つかったはず。」—

「たしかにいたわ 夜明けごろ
東の空に朝焼けがくるまえに。
門のきしむ音があなたを起こさないよう
家に帰ってベッドにお入りと追いかえしたわ。」 35

「お姉さま、もうひとつだけ聞きたいの
背の高いたくましい若者をみかけたでしょう
善きを助け 悪しきをくじくため
風のように走る若者よ 40
荒涼とした海を越え はるばる帰ってきたのよ ふるさとに
わたしを妻に迎えるために。

ふたりの心はひとつに
ふたりの命はひとつに 結ばれてるの。」 —
「たしかに見かけたわ 名も知れぬ男が 45
あなたの部屋の扉のそばをうろつくのを。
だから言ってやったのよ、あの娘にはもう夫がいて
たがいに負けないくらい愛しあっていると。」 —

「なんてこと、お姉さま、なんてこと！
なぜそんな嘘をつくの 50
あのひとは わたしの心に決めたひと
死ぬまで愛するつもりなの
それなのになんてこと そんな嘘で傷つけて
追い払ってしまうなんて。

地の果てまでも追っていくわ あのひとの後を 55
悲しみにくれて 死ぬまで追っていくわ。」 —
「旅立つがいいわ 悲しみにくれて
見出すがいいわ 悲しみのなかで。
あくまでもお父さまの名を汚すつもりなら
あなたをどこまでも呪ってやる。」 — 60

(滝口智子訳)